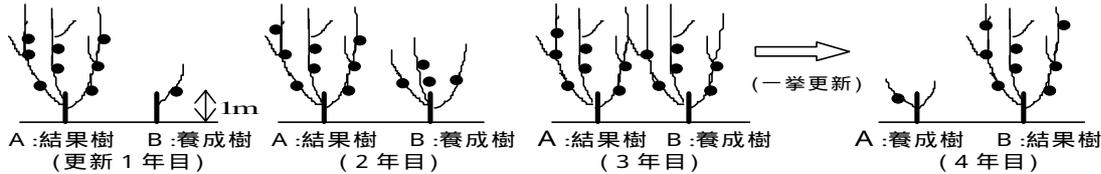


リンゴのカラムナータイプ「タスカン」に適した省力的せん定法

リンゴのカラムナータイプ「タスカン」のせん定において、地上部 1m 付近で主幹を切り戻す側枝一挙更新法を 3 年サイクルで行うことにより、作業の画一化が可能となります。また、毎年側枝を更新する側枝順次更新法と比較して、せん定時間が短縮されます。

【側枝一挙更新法】 結実樹と養成樹を一本おきに交互に設定。3 年サイクルで切り替える。



【側枝順次更新法】 大きくなった側枝(破線)を毎年更新する。

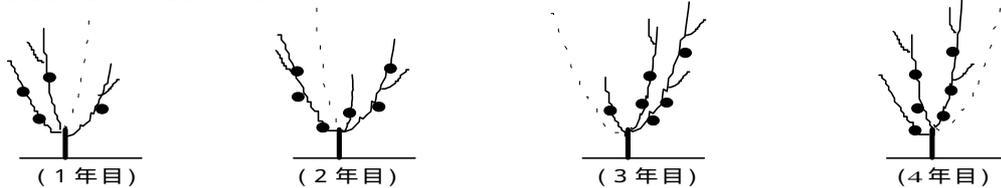


図 1 側枝一挙更新法および側枝順次更新法の概略

一挙更新法は更新年以外の年のせん定があまり必要ないので、毎年側枝を更新する順次更新法と比較して、せん定作業に要する時間が少なく省力的です。また、収量は順次更新法よりやや劣りますが、隔年結果性が弱くなる傾向がみられます。

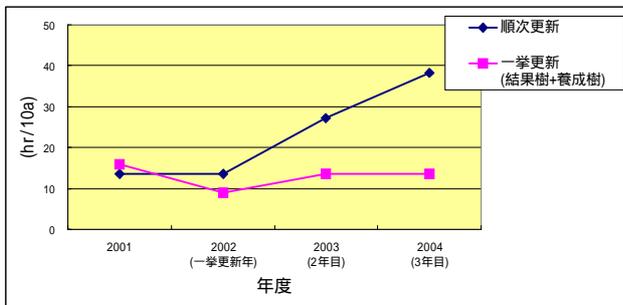


図 2 せん定時間の比較 (作業人数;1人)

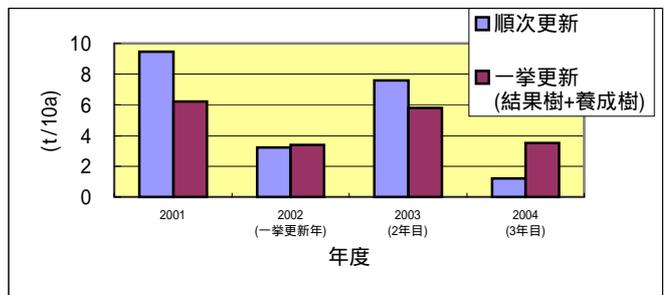


図 3 収量の比較

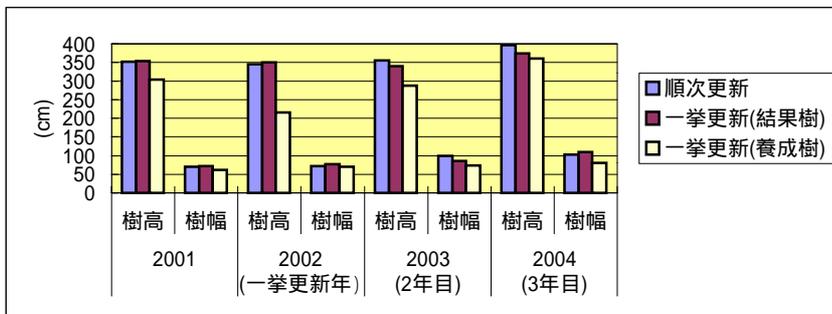


図 4 樹体生育の比較

注)本試験は「タスカン」(2001年当時樹齢10年生)を用い、栽植距離 1m×0.5m(2条植え)の密植条件で行ったものです。

側枝一挙更新後、養成樹は約3年で結果樹レベルにまで生育するので、3年サイクルでの更新が可能です。

ただし、土壌条件等によっては生育が異なり、更新に要する年数が前後する可能性があります。